

産業創出、学生定着図る

中小企業や 県立大協力会設立
団体、総社市



県内の中小企業や産業振興団体などでつくる「県立大協力会」の設立記念式

県立大(総社市窪木)との連携強化に向け、県内の中小企業や産業振興団体などで構成する「県立大協力会」が16日、発足した。産学官による共同研究や人材育成を進め、新産業

創出や学生の地元定着率向上を目指す。事務局を務める同大によると、協力会は会員企業向けに革新技術を導入するためのセミナーを開いたり、共同研究の橋渡し役を担ったりする。学生が会員企業でインターンシップ(就業体験)に取り組み際の窓口にもなる。この日、岡山市内で設立記念式があり、関係者約70人が今後の活動スケジュールを確認した。現在、製造業や

情報・通信業など30社と県産業振興財団や総社市など4団体の入会が決まっており、5月上旬に総会を開いて2018年度の予算と事業計画を決める。

同大の佐藤洋一郎・地域共同研究機構長は「大学としても企業が技術相談や共同研究の依頼をしやすい環境を整えていきたい」としている。(河内慎太郎)